

# 住まいの質と環境配慮を追求



## 当社の社会的使命

当社は“暮らしをまもる 住まいを魅せる”の企業スローガンのもと、住宅の外廻りを通じて、安全性を確保し住まいの質の向上と環境配慮を両立させる環境調和型企業として「環境共生」「安全・安心」「住宅の美しさ」を追求した外装建材を安定供給し、豊かで快適な住まいづくりに貢献します。

## 事業活動と環境問題

わが国は東日本大震災を契機として顕在化したエネルギー需給構造の問題や、今後発生が予測される大規模地震への対応の問題に直面している中で、持続可能な社会を実現する事が大きな課題となっています。

温暖化に伴う異常気象や水害発生などのリスクの高まりが世界中で懸念されている中で、昨年11月に21世紀後半までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする国際協定「パリ協定」が発効され、国連気候変動枠組条約第22回締約国会議(COP22)でその目標達成の為にルール作りの作業期限や全ての国が参加できる形で交渉を行うことと規定されました。

わが国においては、温室効果ガスを2030年度に2013年度比で26%を削減するという目標を掲げ、いわゆる省エネ法も改正強化がなされ、更なる省エネの取組みや実践が求められることとなります。

産業・運輸部門のエネルギー消費量が減少する中、建築物部門は著しく増加しており、省エネ対策の抜本強化が必要なことから、建築物省エネ法が2016年4月から段階的に

施行されています。建築物の省エネ性能の向上を図るため、非住宅2000m<sup>2</sup>以上の建築物の新築・増改築に対する省エネ基準適合義務や300m<sup>2</sup>以上の建築物の届出などの規制的措置が2017年4月に施行されました。

また、大規模地震の発生に備えて建築物の地震に対する安全性の向上を一層促進するため、2013年11月に施行された「改正耐震改修促進法」では病院、店舗、旅館などの不特定多数の者が利用する建築物の耐震診断の義務付け結果の公表や耐震改修計画の認定基準緩和による対象工事の拡大などの措置が講じられました。しかしながら、昨年4月の熊本地震では1981年に改正された建築基準法の新耐震基準より以前に建てられた耐震性が不十分な建物の倒壊被害が大きく、改めて早急な耐震化の促進に迫られています。

さらに良質な住宅ストック流通の普及・促進のため、「長期優良住宅化リフォーム推進事業」「住宅ストック維持・向上促進事業」の延長・継続、「住宅ストック循環支援事業」の創設などの既存住宅の耐震・省エネなどの性能向上改修を促進・助成する政策が本格化し、リフォーム市場などの環境整備が積極的に推進されています。

一方、2014年4月施行の改正省エネ法の「電気の需要の平準化に関する措置」により夏期・冬期の昼間の電気需要を低減することや2013年末に採択された水銀に関する水俣条約、2015年4月施行のフロン排出抑制法のほか、廃棄物処理法や大気・水質の環境汚染防止関連法を遵守し、地球環境や地域の生活環境、動植物の生態系を守らなければなりません。

ケイミューは、グループをあげて持続的発展が可能な社会の実現をめざし、地球環境との共生に取り組み、経済・環境・社会の面でバランスのとれた事業活動を通じて省エネ

化による低炭素社会の構築や住宅の耐震化に貢献すると共に環境保全活動のレベルアップを図ってまいります。

## 事業活動を通じた社会貢献

当社は、“暮らしをまもる 住まいを魅せる”を企業スローガンとした事業活動を通じて、住宅の外廻りで「快適」「エコ」そして「安全・安心」に取り組んでおり、それらに配慮したデザイン性豊かで一歩先を行く外壁材、屋根材、雨といの部材と工法システムなど、価値あるアイデアの提供を通じて、住む人が愛着を感じて未永く健康な生活をおくれる住まいの外廻りを創造していきます。

また、低炭素化社会の構築に向け住まいの省エネルギーから「ネット・ゼロ・エネルギー」の動きに対し、これまで以上に長期耐久性に加えて省エネ性や耐震性に優れた外装建材の提案力を高め、積極的にアプローチしてまいります。

「セラミックコート」と「グラスコート」の無機系塗装技術は、当社が誇るオンリーワン技術です。その「セラミックコート」と「汚れを洗い流すセルフクリーニング機能」を併せ持つ「光セラ」外壁材と「グラスシリーズ」屋根材がメンテナンスに必要な再塗装を減らすことにより、再塗装で生じるエネルギーを削減すると共に長期間にわたって住宅の外観の美しさを保ち“暮らしを魅せる”を実現します。特に「光セラ」は、表面に施した光触媒により油分を含む汚れを分解するセルフクリーニングと共に大気汚染物質であるNOxなどを分解する大気浄化機能を発揮します。

また、住宅の耐震化には地震の揺れを軽減する屋根部分の軽量化が大きな効果を発揮します。陶器瓦の重量の半分程度の「軽さ」を特徴とする屋根材「カラーベスト」、「ROOGA」の商品で、特に「ROOGA」においては、陶器瓦に比べ耐風雨性・耐衝撃性を備えた軽量厚型屋根材で住宅がさらされる厳しい自然環境や地震から“暮らしをまもり”ます。また「遮熱グラス」は、環境省による環境技術実証事業の「ヒートアイランド対策技術分野」において効果が実証され2011年度より環境省環境技術実証マークを取得し、建物の蓄熱の抑制などで地球温暖化防止効果が期待できます。

金属サイディング『はる・一番』については、2013年以降自社生産に移行し、安定した生産体制を確立すると共に、窯業系サイディングを含めた配送効率化にも努めております。本体、役物の一貫生産による事業付加価値向上や市場ニーズに連動した商品開発の推進による提案力の向上を図りつつ、表面に遮熱性フッ素焼付けを施した鋼板、芯材には硬質イソシアヌレートフォームを採用し、紫外線による外壁の塗膜変色や色落ち防止などの高耐候性と遮熱効果による温度上昇抑制や地震時の揺れによる影響を少なくすることができる軽量設計を備え、新築・リフォームを問わず金属

が持つシャープな表情で住宅外観を創出します。

さらに今後成長が期待できるリフォーム市場では、屋根で遮熱する「ROOGA+遮熱ノアガードII」「カラーベスト+熱シャット工法」や葺き替えよりも安価で工期も短いROOGA重ね葺き「Re住(リジュー)工法」、重ね葺きはもちろん新築でも使える金属屋根材「スマートメタル」を加え、また、外壁では「重ね張り外張り断熱工法」「K<sup>2</sup>耐震LaZo工法(ケイツーラソ)(耐震タイプ、断熱・耐震タイプ)」などにより、住宅の長期耐久性や耐震性、省エネ性を向上させる商品・工法開発促進を行い、積極的に展開を図ってまいります。

当社は商品のみならずサービス面においても、環境負荷の軽減に努めています。「KMEW端材回収リサイクルシステム」の推進や再生資源の活用などにより、資源循環型社会の構築に寄与し、住まいの「快適」と「エコ」の両立の実現に貢献してまいります。

## 事業活動と地球環境との共生

持続可能な社会を実現するために、事業活動と地球環境との共生を第一と考え、2016年度は、地球温暖化防止、資源循環、汚染防止などさまざまな環境保全活動に取り組んでまいりました。「ものづくり革新活動」や「需要連動型生産体制」構築への取り組み、また「省エネワークショップ」で全社横断的にエネルギー低減活動の水平展開の最大化を図ることにより、エネルギーロスの徹底した削減を推進してまいりました。

2017年3月に発売したリサイクル内装ボード「SOLIDO typeF coffee」は、多岐にわたる身近な廃棄物を利用し、原料に占める再生材料比率約60%を実現した商品で、このリサイクルの取り組みやセメント素材そのものの自然な表情が認められ、グッドデザイン賞を受賞し、更にグッドデザイン・ベスト100にも選出されました。

また、社内外で発生した廃棄物の再原料化の拡大や新築現場で発生する端材やパレットの回収再利用を促進し、資源循環活動、大気や水系への有害物質の排出削減活動などを通じて環境負荷低減に努め、当社「環境推進中期計画」での目標達成に向けて、より一層取り組んでまいります。

本報告書は、当社の2016年度の取り組みの内容と成果についてまとめています。本報告書を通して当社の考え方や取り組みについてご理解をいただくとともに、皆様の一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役社長 野浦 高義